

心奥探訪

〜二人三脚で作り上げたもう一つの居場所〜

台風の足音が近づこうとしていた8月末。

少し遅れて、待ち合わせ場所に彼女はやってきた。

「お待たせしました」

ニコニコと明るい笑顔はお店に立っている時と変わらない。

隣の夫と談笑している雰囲気はおしどり夫婦そのものようだ。

初めて彼女を見たのは2人の結婚式。

彼の隣で幸せそうに微笑む姿を今でも覚えている。

「一番は嫁の存在かなあ。以前、彼が語った一言。

彼の療養生活、お店オープンまでの日々、

公私共に支えた彼女の笑顔にはどんな想いが込められていたのだろうか？

そこには彼に対する感謝と深い信頼が固く結ばれていた。

彼女が彼と出会ったのは彼が主催の飲み会。

盛り上げ上手だった彼が印象に残り、

終了後、彼女から連絡を取ったという。

「絶対合わないって思いました」

彼はキツチリ、私はズボラ、そんな風に当時を振り返る彼女。

そんな心配をよそに出会いから約3ヶ月で交際がスタート。

さらにそれから半年で結婚の話が持ち上がり、

翌年4月1日には入籍と、トントン拍子に事は進んだ。

しかし入籍からわずか1ヶ月。

彼の片耳から音が失われた。

「働きすぎてないかな」

共に過ごすからこそ見えてくる、彼の頑張り。

当時はサラリーマンとして働いていた彼だが『休みがない人』というイメージがあったという。ストレスによる耳の異常。

彼女の心配が現実となってしまった。

「気づけなかった・・・ごめん。」

彼から診断結果を聞いた時、そんな後悔の気持ちを感じたという彼女。

しかし同時にホッとした気持ちも湧いて来たという。

これで休んでもらえる、何ヶ月でも何年でも気が済むまで休んでいいよ。

2人で過ごす療養生活の中、

彼女はこの時初めて、彼が自分をさらけ出してくれたとも感じている。

「何年たっても必ず復帰してくれる」

彼への信頼こそが彼女の強さの理由なのだろう。

そんな彼からお店を出そうと思うと伝えられた時はスッと受け入れられたという。

同じ日の直前に職場仲間からお店を出すんじゃないかという話が重なったこともあり、

良い予感しかしないとまで感じていた。

「好きなことで仕事出来たらいいね」

そんな言葉をかけ続け、いろんな選択肢を2人で話し合った中で辿り着いた一つの答え。

この日から2人にとって本当の二人三脚が始まった。

店名やメニュー、その日考えたことを夜、彼女に話す彼の目はキラキラ輝いていたという。

一人で突っ走るのではなく、共有してくれること、相談してくれること

その一つ一つが安心し、何より嬉しかった。

そんなやりとりの中、彼女が今担になっているのがデザイン。

お店の看板キャラクターやメニュー表、ポップ関連は全て彼女が制作している。

「頼ってもらって嬉しい」

共有と相談が今度は頼られ、任せられることに変わる。

元々デザインは好きで続けていた彼女。

作っているときは夢中になれると今度は彼女の目がキラキラとしている。

そんな2人が作り上げていく空間。

普段彼女は、彼のために、は特に意識していないという。

好きなものやアイデアが繋がると嬉しく、没になるとちょっとガッカリ。

お互いにワクワクして楽しみが溢れる中で積み重ねたオープンまでの日々。

めっちゃ良い時間だったと語る彼女の想いは2人の結婚式にも表れていた。

「やるなら来てもらった人を楽しんでもらおう」

2人で出演、制作したムービーを流すなど、彼らのサービス精神が至るところに顔をだしている。店のオープン、結婚式と多忙を極める中でやりきれたのは彼が協力的だったからだという。

「ふたりでちゃんと丸になってるのかな」

彼女にとって彼はどんな存在なのか？

彼もそう思ってくれてたらいいなとそんな質問に照れながらも答える彼女。

5年前までは性格も今と正反対でそういう存在ができるとは思ってなかったという。

そんな彼女がグランドオープンしてから「毎日が楽しい」と言えるのは彼のおかげだと語っている。

お客さんの居場所になりたいと始まったこの場所は、今多くの人に元気を足している。

その源にあるのが感謝と信頼で紡がれた2人の絆。

今日も彼女は、店の門をくぐる。

大切な人が待つ私の居場所へ。

お客さんを笑顔にする私たちの居場所へ。

彼女の笑顔の理由がここにある

「ただいま」